

事業所における自己評価結果(公表)

評価年月日: 令和 6 年 3 月 1 日

公表: 令和 6 年 3 月 31 日

事業所名: 遊楽デイサービス サンゴ

チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	評価や改善すべき点と関係した 取組や対応の状況(得意)
1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			
2 職員の配置数は適切である	11			
3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	1		
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	1	使用したおもちゃ等は毎日アルコール消毒をし、清潔を保っている。	
5 児童発達支援センターの対応のサイクル(目標設定と振り返り)に、広(職員が季節など)	9	1		
6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11			
7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の計画及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11			
8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	1	相談員、地域療育センター、他がない	
9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		他に後援、全職員での研修を行っている。	
10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11			
11 子ども達の行動の改善を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11			
12 児童発達支援計画には、児童発達支援がイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11			
13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10	1		
14 活動プログラムの立案をチームで行っている	10	1	毎日のミーティングで意見交換を行っている。	
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		季節に応じたプログラムを行っている	
16 子どもが状況に応じて、個別活動と集団活動を併用しながら児童発達支援計画を作成している	11			
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11		毎朝スタッフ間で児童の状況について話し合い確認している。	
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、実行した点等を共有している	11			
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11			
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11			
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した職員が参加し参加している	11			
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	11			
23 「医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等と連携している(療育)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11			
24 「医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等と連携している(療育)子ども・子育てや協力医療機関と連携した支援を行っている	11			
25 移行支援として、保育所や認定こども園、特別支援学校(幼稚園)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11			
26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小中学校)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11			
27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11			
28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	11			
29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等に積極的に参加している	8	3		
30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11		遠隔の間に保護者とのコミュニケーションを積極的に取り、児童にたいしての共通理解を持つようしている。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	3		
32 運営規程、利用費負担等について丁寧な説明を行っている	11			
33 児童発達支援がイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を確保している	11			
34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11			
35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等と連携する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	保護者会を設立し、先輩ママさん等を引き、話す機会がある。	
36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11			
37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11		ハートシップ連絡を月1回発行している。	
38 個人情報の取扱いに十分注意している	11			
39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11			
41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	1		
42 災害災害の発生に備え、定期的な避難、救出その場の対応訓練を行っている	9	2	毎月1回行っている。	
43 事前に、服装や手袋着用、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	11		感染症の発生を防止して保護者に確認している	
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11		該当なし	
45 とやリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11			
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11			
47 どのような場合にもやむを得ず身体拘束を行うかについて、積極的に決定し、子どもの保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11		身体拘束を必要とされた児童について、利用されたら録音等を記録している。	

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。